

令和4年度全国学力学習状況調査の結果分析等について

学校名

秦野市立渋沢中学校

1 調査結果の分析と考察

本校の特徴	本校の課題
(1) 国語については、漢字や語句についての知識や使い方は身につけていますが、「話すこと・聞くこと」に関する領域の問題で正答率が低いことがわかります。	(1) 「話すこと・聞くこと」については、話を組み立てたり、よりよい表現に変えたりする力に課題がみられるので、スピーチ等の学習を多く取り入れていくことが必要です。
(2) 数学については、選択式や短答式の問題では正答率が比較的高いですが、記述式の問題について無回答率が高いことがわかります。国語については「話すこと、聞くこと」の領域で正答率が低いことがわかります。	(2) 数学における記述式の問題については、数値を求めるだけでなく、その意味についても深く学び、必要な情報を適切に読み取る力や筋道を立てて数学的に考察する力が必要です。
(3) 理科については、日常生活に関係している選択問題や短答問題は十分理解されているようですが、記述式の問題で自分の考えを文字に表すことを苦手としている生徒が多いことがわかります。	(3) 家庭での読書時間は少なく、ゲームを長い時間している傾向が見られます。自分と向き合う時間を学校や家庭でも増やしていく時間が必要だと考えます。

2 昨年度の取組の分析と考察

(1) 子どもの主体性が育つよう、具体案を示しながら指導を続けてきた結果、一人ひとりが明確な目標を持ち、自ら計画的に学習に取り組む生徒が増えていると思われます。
(2) ICT機器が学習に役立つと回答している生徒は9割を越えているのに対し、ICT機器を積極的に授業で活用している割合が減少していることがわかります。クローズドブック等の活用を図ってきましたが更なる具体的かつ効果的な活用について検討する必要があります。
(3) 「いじめはどんな理由があってもいけないと思うか」という設問について、改善傾向は見られますが、まだまだいじめを「しない・させない」ような意識の涵養が大切だと考えています。これからも学校教育目標のもと、心身ともに健康な生徒の育成を目指していきます。

3 教育水準の改善向上に向けた次年度の取組の方向性について

(1) 数学については、自分の考えや説明したいことをうまく表現できない傾向がある。授業の中で解答にたどり着いた過程を大切に、自分の言葉で表現できるような学習活動に取り組んでいきます。
(2) 周りの人と協力しながら物事に取り組むことができる生徒が多いです。その反面、人の考えを理解し悩み等を分かち合う場面が少ないように見られます。そのため、話し合い活動を学校生活の中に多く取り入れて、互いに尊重しあえるようにしていきたいと思ひます。
(3) 将来の夢や目標を設定して、その実現のために努力を惜しまない姿勢を持っている生徒が多いことがわかります。そうした気持ちを持って普段の生活を送ることの大切さをこれからも大事にしています。

4 家庭・地域の方へのメッセージ

本校の生徒は、基本的な生活習慣はしっかりと身につけているようですが、質問紙調査から朝食をとらない生徒が多いことがわかっています。また、スマートフォン等を活用したゲーム時間が長い点が気になります。規則正しい生活習慣が心身ともに健康な生徒の育成の土台になりますので、学校と家庭が協力し、ゲームやスマートフォンの利用に関して約束を設けるなど、改善をしていかなければならないと考えておりますので、ご理解ご協力をお願いいたします。